

第1回清瀬市シティプロモーション戦略基本方針検討委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和8年2月4日（水）午後6時～午後7時30分
2. 開催場所：清瀬市役所本庁舎3階会見室
3. 出席者：別添出欠簿のとおり
4. 傍聴者：0人
5. 事務局：経営政策部シティプロモーション課

6. 委員会内容：

(1) 開会

事務局より挨拶を行った。

(2) 各委員の自己紹介

各委員より自己紹介が行われた。

(3) 委員長の選出

委員の互選により、委員長が選出された。

(4) 委員会の公開について

本委員会の公開について、市ホームページに委員名簿及び議事要旨を掲載すること及び本委員会の傍聴を認めることとなった。

(5) 清瀬市シティプロモーション戦略基本方針（案）

委員長の指名により事務局から、清瀬市シティプロモーション戦略基本方針（案）について①策定の背景および目的、②位置づけと見直し時期、策定までの活動、③本市の現状、④ビジョン（目指すべき姿）、⑤期待する効果（認知度・好感度の獲得、移住人口の獲得、交流人口・関係人口の増加、清瀬製品の販売促進、新たな税収源の確保）、⑥アプローチの方向性（対内的プロモーション、対外的プロモーション）、⑦シティプロモーションの施策・方向性、⑧シティプロモーション戦略基本方針と推進体制について説明を行った。

その後、委員による意見交換が行われた。

【委員意見】

- ・ふるさと住民登録制度の活用については、清瀬市を好きになってくれた方や、市外在住でも清瀬市で活動をしてくださる方にふるさと住民登録をしてもらい、交流人口を増加させる効果がある。

- ・2居住拠点については、平日は都内、土日は清瀬市に住む方が増えたら良いと思う。
- ・子どもたちに「清瀬の一番良いところ」のアンケートを取ったところ1番は「野菜がおいしいところ」だった。清瀬の水と緑・きれいな空気を楽しんでいただけるものがあれば良い。
- ・若年人口が増えていることが素晴らしい。数年前から人口増加に市が動いていて、結果が出ているところを評価している。今後の人口減の中で、この人口を維持するためにこの方針を進めていくのは賛成である。一方で課題としては様々な事業をしているが、なにが一番ウリなのかが見えづらいため、その部分を一番に考えても良いのではないか。
何を持って清瀬に人を呼ぶのかコンテンツを考えた方が良い。
- ・市民の情報に格差があり、多くの子育て支援を実施しているが、知らない方がいる。どのようにして事業を伝えていくのが課題であると認識している。
- ・待機児童が少ないことが、若年層が定着している理由でもあると思う。清瀬に居住していれば認識出来るが、外部まで伝わっていないのが、課題と考える。幅広く実施してしまうと、包括的になってしまうため一つの突破口を押し出すのも大事である。
- ・清瀬のファンを増やすという意味では、市外の人に届けることが課題である。
- ・市内でも多くのドラマ等の撮影に使われている場所がある。清瀬市のロケ誘致なども含めて清瀬の良いプロモーションにつなげられるのではないか。
- ・旅番組など、清瀬市が特集されるようになってきているが、紹介するものが少ないと感じる。プロモーションできることがもっとあるのではないか。誇れるものを作らなければいけない。
- ・人口が増えてきたのも家が増えてきたことが関係している。そこに来るのは若い夫婦だと推測される。その人たちが住みやすいまちを目指し、プロモーションしていくのが良いと思う。
- ・北側は土と緑と水で農作物を育て、南側は癒しの空間。まちのつながりのストーリーをプロモーションし、土があり緑があり育むものがある強みを活かすべきである。
- ・清瀬市の一番の特徴である「農ある風景を守っていく」をどう伝えていくかを考えたときに、地域産物を使った商品を開発して、皆さんに召しあがっていただくところからスタートしていく事が肝要である。
- ・「清瀬産のにんじんをまちで見ない」と言われた。清瀬産のにんじんがどこに流通しているのかなどがわかれば、この自然を守ろうと意識していくはずである。身近な情報をつなぎ合わせてプロモーションしていくのが必要である。
- ・現状、外に打って出ることが出来ていない。外に打って出ていくにしても、武器を持っていなければいけない。その武器として地域産物を使った地域産品を使っていく。その方法として SNS の運用や、紙媒体、または、協力関係のある業者などの力を借りて外に出ていく。外に出ることで清瀬のファンを作っていく。外との関係も構築して行きたい。
- ・清瀬の魅力の説明の仕方、見せ方、関心の持って生き方をどのような切り口で伝えていく

かも課題。きよせ棒のとうもろこしも、元々酪農の牛が清瀬のデントコーンを食べて、その堆肥で作ったとうもろこしをパウダーにしてきよせ棒が生まれている。このストーリーを知っていただくと、とうもろこしのブランド化にもなり、市民にも市外の方にも知ってもらえれば清瀬はSDGs循環サイクルも整っていると思っただけ。

- ・プロモーションしなければいけないコンテンツについて、現状バラバラのものを施策の体系化を図ってプロモーションしていくのが大事だと感じている。
- ・きよせとえば、結核療養の街だったので関係人口は多くいる。その方たちを受け入れられるルートを作るのが大事だと考える。
- ・対外的プロモーションに「マイナスイメージのプラスへの転換」とあるが、清瀬のマイナスなところとは何か考えたい。
- ・清瀬は住むところだけど、来るところ・遊ぶところじゃないと言われている。両方を目指すのか、どちらかを強めるのか検討する必要がある。
- ・市職員にも様々な事業を自ら宣伝いただき、プロモーションしていただく必要がある。
- ・昨今、災害などの問題が起きているが、清瀬は安全な街である。国の機関などが立地しているのが証明している。災害などの強さをアピールしていくのが大事であると考え。

7. その他

事務局より第2回委員会を書面開催とし、第3回委員会は3月下旬を予定している旨説明があった。